

## ▶ 日本分析化学会 2018年度有功賞受賞

当社千葉ラボラトリーの新池谷努、愛媛ラボラトリーの松本裕美の2名が、2018年9月13日公益社団法人日本分析化学会「2018年度有功賞」を受賞しました。いずれも多年にわたり幅広い分析の実務に従事し、その豊富な経験と知識によって様々な分野のお客様のご要望にお応えしてきた実績が認められたものです。

新池谷は、千葉地区にて大気汚染防止法に対応した環境分析、製品出荷・工程検査に関わる有機・無機・物性試験、さらには様々な製品や材料を対象とした環境試験などの幅広い分析に携わり、長年にわたってその技術を磨き、分析を通じて各種製品の品質向上に貢献して参りました。

松本は、愛媛地区にて水質・土壌などの環境分析、工業製品の出荷検査や工程分析に従事し、前処理検討やGC、LC、ICP等を用いた機器分析の条件最適化を行い、新たな手法や合理化法を開発・確立するなど幅広く第一線で活躍して参りました。

受賞者2名はいずれも30年以上の長きにわたって、卓越した技術と実績、そして品質への高い意識を持って業務に取り組んで参りました。現在は、自らの技術を研鑽し続けると共に、これまで

蓄積した豊富な知識・経験を後輩へ技術伝承するなど、若手技術者の育成にも力を注いでおり、この情熱が当社の“今”と“未来”を支える礎となっております。

当社は、お客様に信頼されるパートナーを目指し、これからも日々たゆまぬ努力を継続して参ります。



千葉ラボラトリー 新池谷



愛媛ラボラトリー 松本

## 主な投稿論文・口頭発表等 2018.5→2018.10

### 投稿論文

#### 【医薬分野】

Proposed selection strategy of surrogate matrix to quantify endogenous substances by Japan Bioanalysis Forum DG2015-15

学術誌[Bioanalysis] (Future Science Ltd発行), Vol.10, No.17, 1349-1360 (2018)

Akira Wakamatsu\*1, Shoko Ochiai\*2, Eiko Suzuki\*3, Yoshinobu Yokota\*4, Midori Ochiai\*5, Yosuke Kotani\*6, Satomi Sasahara\*7, Keita Nakanaga\*8, Yuki Hashimoto\*9, Satoko Ueno\*10, Nozomu Kato\*11, Satoshi Kawada\*12, Jun Hayakawa\*13, Eiichi Shimada\*14, Shinya Horita\*15, Kazuaki Sakai\*16 (\*1 GlaxoSmithKline K.K., \*2 Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., \*3 Daiichi Sankyo Co., Ltd., \*4 SNBL USA, Ltd., \*5 Towa Pharmaceutical Co., Ltd., \*6 Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd., \*7 Towa Pharmaceutical Co., Ltd., \*8 Toray Industries, Inc., \*9 Sumika Chemical Analysis Service, Ltd., \*10 Ajinomoto Co., Inc., \*11 Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation, \*12 Shin Nippon Biomedical Laboratories, Ltd., \*13 Shionogi & Co., Ltd., \*14 Ono Pharmaceutical Co., Ltd., \*15 Kyowa Hakko Kirin Co., Ltd., \*16 Teijin Pharma Ltd.)

生体試料中の内因性物質を定量する場合、ブランクマトリックス中に分析に影響を与えるレベルで分析対象物質が含まれるため、代替マトリックスを利用するケースがある。日本バイオアナリシスフォーラム (JBFA) にて代替マトリックスの選択法アプローチ及び代替マトリックスを選択する際の妥当性の確認方法を議論した。

Approaches of validation of a 2-week combined repeated oral dose toxicity study with plasma micro sampling toxicokinetics (PMS-TK) in common marmosets

学術誌[The Journal of Toxicological Sciences] (一社) 日本毒理学学会発行) 43 (1), 685-695 (2018)

Hideki Mochizuki\*1, Naoya Murota\*1, Shin-ichi Sato\*1, Kazuo Niir\*2, Yoko Kouhei\*2, Masahiro Taniguchi\*2, Ryo Inoue\*3, Chiyoaki Nishime\*3, Hideki Tsutsumi\*3 (\*1 Ina Research Inc., \*2 Sumika Chemical Analysis Service, Ltd., \*3 Central Institute for Experimental Animals)

バルサルタンを被験薬とし、コモンマームセットにおけるICHガイドライン (ICH-S4, ICH-S3A, ICH-S7A) に対応した Toxicokinetics (TK) 測定を含む複合型反復毒性試験実施の可能性について検討した。TK 測定は微量採血法と高性能 LC/MS/MS を使った超高感度定量法を組み合わせた Plasma Micro Sampling Toxicokinetics (PMS-TK) 法を導入し、同一個体での毒性変化と血漿中濃度との関係性を検討した。

#### 【マテリアル分野】

環境温度を考慮したリチウムイオン2次電池 in situ XRD 測定法の開発

「SPring-8 利用研究成果集」(財団法人高輝度光科学研究センター発行)

東 遼介、高橋照央、末広省吾 (技術開発センター) リチウムイオン電池の充放電に対する作動環境温度の影響を解析するため、温度機能を有する in situ 測定系を構築し、高温 (80°C)・低温 (-10°C) における in situ XRD 測定を実施した。各条件で室温 (25°C) とは異なる活物質の構造変化が観測された。

In situ XAFS による Pd/CZrO<sub>2</sub> 触媒の劣化解析

「SPring-8 利用研究成果集」(財団法人高輝度光科学研究センター発行) 東 遼介\*1, 高橋照央\*1, 藤本智成\*2, 末広省吾\*1 (\*1 技術開発センター, \*2 愛媛ラボラトリー)

本課題では SPring-8 BL08B2 における in situ XAFS とラボで実施可能な in situ XRD を併用・比較して Pd/CeZrO<sub>2</sub> の劣化解析を行うことで、触媒の挙動および in situ XRD の有用性を考察した。

異物分析の目的および代表的な異物/異物分析前の情報収集と形態・性状の確認/異物分析事例 (その他の異物分析例 (イメージング IR)) (書籍)「異物分析の基礎と応用事例集」(株)R&D 支援センター発行) 第1章(2-16)/第2章(20-27)/第5章 第6節(246-248)(2018) 末広省吾、佐伯敦恵 (大阪ラボラトリー)

異物の定義とその対策、問題解決に効果的な異物分析について、異物問題の早期解決に向けた心得、代表的な混入異物の事例と対策、異物分析前の情報収集、異物の形態観察 (実体顕微鏡、デジタルマイクロスコプ、SEM、X線マイクロCT)、形態的知見からの識別、異物分析手法の選択等に関する総合的な解説およびイメージング IR による液体試料中の浮遊異物の分析事例について紹介した。

#### 【健康・安全分野】

環境測定分析士1級を取得して

機関誌「環境と測定技術」(一般社団法人日本環境測定分析協会発行)

533 (5) 59 (2018)

吉田幸子 (大阪戦略室)

環境測定分析士1級取得者体験談。取得動機、職場のバックアップ、1級の更新制度について紹介した。今後環境測定分析士に求められる役割はさらに大きくなるを期待している。

### 口頭発表等

#### 【医薬分野】

エクソソーム内タンパク質の定量分析

○高橋昭博, 丸谷隆子, 岡嶋孝太郎, 十亀祥久 (技術開発センター) 日本質量分析学会・日本プロテオーム学会 2018 年合同大会 (ホテル阪急エクスポート 大阪), 2018 年 5 月 18 日

薬物経口投与後の代謝物体内動態解析: 同位体 IV 法を用いた定量的解析

○大代翔太\*1, 片岡 誠\*1, 富樫一夫\*2, 牟田口剛則\*3, 南 景子\*1, 東野晴輝\*1, 山下伸二\*1 (\*1 摂南大学, \*2 医薬事業部, \*3 大阪ラボラトリー) 日本薬理学会第 33 年会 (京都大学), 2018 年 5 月 31 日

これから始める企業のための ICH Q3D 元素不純物 (新薬・既存薬) 対応リスクアセスメントとガイドライン・トレーニングマテリアル徹底解説

東 秀幸 (大阪ラボラトリー) サイエンス & テクノロジー- 橋主主催セミナー (きゅりあん 東京・品川), 2018 年 6 月 27 日

【MEASURE】3. In vitro detection of undifferentiated pluripotent stem cells

- Preliminary studies of droplet digital PCR assay -

○Akihiko Azuma \*1, Takuya Kuroda\*2, Oriie Terai\*3, Daisuke

Tomura\*4, Shunsuke Nakano\*5, Maya Morita\*6, Takeshi Watanabe\*7, Yoji Sato\*2 (\*1 FUJIFILM Corporation, \*2 National Institute of Health Sciences, \*3 Sumika Chemical Analysis Service, Ltd., \*4 TAKARA BIO INC., \*5 RIKEN GENESIS CO., LTD., \*6 Axceload Drug Discovery Partners, Inc., \*7 Takeda Pharmaceutical Company Limited)

第 45 回日本毒理学学会学術年会 (大阪国際会議場), 2018 年 7 月 20 日

【MEASURE】4. In vitro detection of transformed cells - Preliminary studies of Digital soft agar colony formation assay

○ Kiyoko Bando\*1, Shinji Kusakawa\*2, Junichiro Saito\*3, Hideki Adachi\*1, Takafumi Yotsumoto\*4, Kentaro Toriumi\*5, Ken-ichi Yamamoto\*6, Ayano Doi\*7, Atsushi Kitanaoka\*8, Takeshi Watanabe\*9, Maya Morita\*10, Yoji Sato\*2

(\*1 Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., \*2 National Institute of Health Sciences, \*3 Astellas Pharma Inc., \*4 Daiichi Sankyo Co., Ltd., \*5 GE Healthcare, \*6 LSI Medience Corporation, \*7 Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation, \*8 Sumika Chemical Analysis Service, Ltd., \*9 Takeda Pharmaceutical Company Limited, \*10 Axceload Drug Discovery Partners, Inc.)

第 45 回日本毒理学学会学術年会 (大阪国際会議場), 2018 年 7 月 20 日

ICH Q3D ガイドライン (STEP5) に対応する医薬品 (原薬、製剤、添加剤) 中の元素不純物分析・リスクアセスメント

東 秀幸 (大阪ラボラトリー)

株式会社情報機構主催セミナー (大田区産業プラザ (PIO) 東京), 2018 年 8 月 20 日

Validation and application of a droplet digital PCR method for absolute quantification of exosomal miRNAs

○丸谷隆子, 高橋昭博, 岩田美紀, 岡嶋孝太郎, 十亀祥久 (技術開発センター)

日本薬物動態学会第 33 回年会 / MDO 国際合同学会 (石川県立音楽堂), 2018 年 10 月 1 日

【マテリアル分野】

車載向け放熱材料の熱物性評価技術

栗石拓也 (マテリアル事業部)

機技術情報協会主催セミナー (機技術情報協会 五反田セミナー ルーム), 2018 年 5 月 10 日

混入異物の分析・成分同定・原因解明技術-事例を中心として-

末広省吾 (大阪ラボラトリー)

TH 企画セミナーセンター (連合会館 東京), 2018 年 5 月 16 日

濃厚系スラリー及びスラリー塗布膜の多角的評価－キーワード：分散性－  
今西克也（技術開発センター）  
㈱技術情報協会主催セミナー（㈱技術情報協会 五反田セミナー）  
2018年5月25日

4D ラミノグラフィによる LIB スラリー塗工過程のその場観察  
○東 進介\*1, 小林秀雄\*1, 三下泰子\*1, 末広省吾\*1, 漆原良昌\*2  
\*1 技術開発センター, \*2 兵庫県立大学  
日本分析化学学会主催第78回分析化学討論会（山口大学）, 2018年5月26日

動力学回折効果を利用した EDXS/EELS 同時測定による LIB 正極材の原子配列 / サイト別組成解析  
○山本 悠\*1, 幸坂 崇\*1, 大西 順\*2, 高橋稔\*1, 片岡邦光\*3, 秋本順二\*3, 巽 一藏\*4, 武藤俊介\*4 (\*1 筑波ラボラトリー, \*2 愛媛ラボラトリー, \*3 産業技術総合研究所, \*4 名古屋大学)  
日本顕微鏡学会第74回学術講演会（久留米シティプラザ）, 2018年5月31日

濃厚系スラリー及びスラリー塗布膜の多角的評価－LIB 正極材料、カーボン材料等を例として－  
今西克也（技術開発センター）  
MS サイエンスティフィック主催分散・凝集セミナー第7回実用講座（㈱アントンパールジャパンセミナー） 東京・品川）, 2018年6月12日

フレキシブル有機エレクトロニクス向けバリア性評価技術の確立および劣化解析への応用  
高萩 寿（筑波ラボラトリー）  
有機エレクトロニクス研究会（化学会館 7F ホール 東京）, 2018年7月12日

放射光活用による先端産業への開発支援  
末広省吾（技術開発センター）  
ものづくりのための放射光分析実習（ニュース/リ放射光施設 兵庫）, 2018年7月26日

TRIP 型ペイニティックフェライト鋼の耐水素脆化特性に及ぼすひずみ速度の影響  
○北條智彦\*1, 鶴岡優子\*2, 秋山英二\*1 (\*1 東北大学金属材料研究所, \*2 千葉ラボラトリー)  
材料の組織と特性部会「水素脆化の基本要因と特性評価」研究会（上智大学）, 2018年9月7日

スラリー塗工過程のその場観察に向けた 4D ラミノグラフィの検討  
○東 進介, 小林秀雄, 三下泰子, 末広省吾（技術開発センター）  
第15回 SPRing-8 産業利用報告会（兵庫県民会館）, 2018年9月7日

軟 X 線測定による高分子表面の状態分析  
○小林秀雄, 東 進介, 三下泰子, 末広省吾（技術開発センター）  
第15回 SPRing-8 産業利用報告会（兵庫県民会館）, 2018年9月7日

材料開発への先端顕微鏡技術の活用  
○齋藤智浩, 真家 信, 鈴木達也, 島田真一, 島田 健（筑波ラボラトリー）  
構造解析連携協議会主催構造解析連携セミナー（幕張メッセ国際会議場）, 2018年9月7日

新たなキラル固定相をご提案します！－アミノ酸、アミン、アルコールのキラル分離－  
西岡亮太（大阪ラボラトリー）  
JASIS2018 新技術説明会（幕張メッセ国際会議場）, 2018年9月7日

異物の分析・成分同定－混入原因解明のために－  
末広省吾（大阪ラボラトリー）  
サイエンス&テクノロジー（㈱）主催セミナー（愛知県産業労働センター ウィングあいち）, 2018年9月13日

濃厚系スラリーの多角的状態評価  
○井上真紀\*1, 相沢詩織\*2, 鳥森拓士\*2, 今西克也\*2, 武田真一\*3  
\*1 大阪ラボラトリー, \*2 技術開発センター, \*3 武田コロイドテクノロジーズ(株)  
第69回コロイドおよび界面化学討論会（筑波大学）, 2018年9月18日

無機分析のための前処理と測定の実例  
三宅義則（愛媛ラボラトリー）  
マイルストーンゼネラル(株)主催マイクロ波試料前処理セミナー2018（かながわサイエンスパーク）, 2018年10月26日

【健康・安全分野】  
韓国「化学物質の登録及び評価などに関する法律」(K-REACH) の改正  
山口孝明\*1, オキムジウン\*2 (\*1 健康・安全事業部, \*2 SCAS Korea, Ltd.)  
化学工業日報主催化学物質管理ミーティング2018（パシフィコ横浜）, 2018年5月17日

マスフラグメント・中性ロスデータベースを用いた液体クロマトグラフィ / 高分解能質量分析によるノンターゲット環境分析  
○鈴木 茂\*1, 大西行雄\*2, 長谷川敦子\*3, 上堀美知子\*1, 滝越昌彦\*4, 吉田幸子\*5, 大塚かおり\*6, 四ノ宮美保\*7, 高沢麻里\*8 (\*1 中部大学, \*2 環境環境総合研究所, \*3 神奈川県環境科学センター, \*4 アジレント・テクノロジー(株), \*5 技術・経営戦略室, \*6 佐賀県衛生薬業センター, \*7 埼玉県立大学, \*8 ニューヨーク州立ワズワースセンター)  
Conference on Mass Spectrometry and Proteomics (MSP2018) (大阪) , 2018年5月17日

化学規制のグローバル化に対応した各国 SDS・ラベル作成の重要性について  
中谷圭吾（安全性評価部）  
化学工業日報主催化学物質管理ミーティング2018（パシフィコ横浜）, 2018年5月18日

液体クロマトグラフィ / 高分解能質量分析によるマスフラグメント、中性ロスデータベースを用いたノンターゲット環境分析  
○鈴木 茂\*1, 大西行雄\*2, 長谷川敦子\*3, 上堀美知子\*1, 滝越昌彦\*4, 吉田幸子\*5, 大塚かおり\*6, 四ノ宮美保\*7, 高沢麻里\*8 (\*1 中部大学, \*2 環境環境総合研究所, \*3 神奈川県環境研究センター, \*4 アジレント・テクノロジー(株), \*5 技術・経営戦略室, \*6 佐賀県衛生薬業センター, \*7 埼玉県立大学, \*8 ニューヨーク州立ワズワースセンター)  
第27回環境化学討論会（沖縄県市町村自治会館）, 2018年5月23日

世界の化学規制の潮流－アジア（中・韓・日）・日本・欧州・米国の中心に－  
林 まさ子（健康・安全事業部）  
公益社団法人日本化学会近畿支部主催第25回化学安全講習会（大阪科学技術センター）, 2018年6月11日

製薬機器の粒子封じ込め性能評価－基本の考え方を中心に－  
大悟法弘充（健康・安全事業部）  
第31回インターフェックスジャパン（東京ビッグサイト）, 2018年6月27日

3 つのリスクアセスメント手法の比較  
小倉智弘（千葉ラボラトリー）  
第31回インターフェックスジャパン（東京ビッグサイト）, 2018年6月28日

海外化学規制の最新動向－韓国・中国・米国・東南アジア－  
木村 龍（健康・安全事業部）  
一般社団法人日本防錆技術協会主催セミナー（機械振興会館 東京）, 2018年6月28日

表面張力測定および接触角測定による化粧品の特性評価  
緒方博彰（愛媛ラボラトリー）  
第31回インターフェックスジャパン（東京ビッグサイト）, 2018年6月29日

EU 域内向けラベル・SDS 作成実務  
伊東深雪（安全性評価部）  
㈱化学工業日報社主催海外 SDS セミナー「GHS 対応 EU / 北中南米向けラベル・SDS 作成実務」（第1講）（アイビーホール 東京）, 2018年8月28日

米国・カナダ向けラベル・SDS 作成実務  
中谷圭吾（安全性評価部）  
㈱化学工業日報社主催海外 SDS セミナー「GHS 対応 EU / 北中南米向けラベル・SDS 作成実務」（第2講）（アイビーホール 東京）, 2018年8月28日

中南米諸国向けラベル・SDS 作成実務－メキシコ・ブラジルその他の国－  
中谷圭吾（安全性評価部）  
㈱化学工業日報社主催海外 SDS セミナー「GHS 対応 EU / 北中南米向けラベル・SDS 作成実務」（第3講）（アイビーホール 東京）, 2018年8月28日

EU 域内向けラベル・SDS 作成実務  
伊東深雪（安全性評価部）  
㈱化学工業日報社主催海外 SDS セミナー「GHS 対応 EU / 北中南米向けラベル・SDS 作成実務」（第1講）（大阪科学技術センター）, 2018年8月31日

米国・カナダ向けラベル・SDS 作成実務  
中谷圭吾（安全性評価部）  
㈱化学工業日報社主催海外 SDS セミナー「GHS 対応 EU / 北中南米向けラベル・SDS 作成実務」（第2講）（大阪科学技術センター）, 2018年8月31日

中南米諸国向けラベル・SDS 作成実務－メキシコ・ブラジルその他の国－  
中谷圭吾（安全性評価部）  
㈱化学工業日報社主催海外 SDS セミナー「GHS 対応 EU / 北中南米向けラベル・SDS 作成実務」（第3講）（大阪科学技術センター）, 2018年8月31日

リスクアセスメント対象化学物質の分析手法開発  
古川 幸（大阪ラボラトリー）  
（一社）日本環境測定分析協会 九州支部（TKP ガーデンシティ博多新幹線口 福岡）, 2018年8月31日

中国における土壤環境事業の展開  
羽淵博臣（住化分析技術（上海）有限公司）  
PAI-NET セミナー「分析サービスの海外展開」（幕張メッセ国際会議場）, 2018年9月6日

難水溶性物質の対水溶解度評価方法の検討  
○畠山由紀, 末包高史, 小笠原 弘（愛媛ラボラトリー）  
第24回（2018年）日本環境毒性学会研究発表会（岐阜大学サテライトキャンパス）, 2018年9月11日

機能表示食品の品質管理の課題－溶解性、崩壊試験－  
西岡由紀（大阪ラボラトリー）  
食品開発展2018（東京ビッグサイト）, 2018年10月4日

固体吸着法による果実・花フレーバーのにおい分析  
池田 慧（千葉ラボラトリー）  
食品開発展2018（東京ビッグサイト）, 2018年10月5日

中国における固体廃棄物堆積由来の汚染土壌修復の実例  
○丸谷浩\*1, 肖濤\*2, 大穴仁史\*3, 羽淵博臣\*1, 大悟法弘充\*4, 冷健雄\*5 (\*1 住化分析技術（上海）有限公司, \*2 江西省持久性汚染物制御及び資源循環利用重点実験室（南昌航空大学）, \*3 北九州市立大学, \*4 健康・安全事業部, \*5 江西智匯環境技術有限公司)  
第24回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター））, 2018年10月31日

中国の土壌環境政策に関する動向とその影響  
○羽淵博臣\*1, 丸谷浩\*2, 大悟法弘充\*3, 肖濤\*3, 冷健雄\*4 (\*1 住化分析技術（上海）有限公司, \*2 健康・安全事業部, \*3 南昌航空大学, \*4 江西智匯環境技術有限公司)  
第24回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター））, 2018年10月31日

## 住化分析センター主催セミナー

【マテリアル分野】  
化学物質の危険性評価とプロセスの安全  
田中則幸（マテリアル事業部）  
㈱住化分析センター主催化学物質による火災・爆発事故防止技術セミナー（神田カンファレンス・ルーム 東京）, 2018年7月13日

混合危険及び反応危険性のスクリーニング  
菊池武史（マテリアル事業部）  
㈱住化分析センター主催化学物質による火災・爆発事故防止技術セミナー（神田カンファレンス・ルーム 東京）, 2018年7月13日

【化学物質危険性セミナー】（協賛：岡山大学）  
①米国 T2 Laboratories 社 暴走反応事故の教訓 / ②米国 Imperial 社 粉塵爆発事故の教訓  
菊池武史（マテリアル事業部）, 2018年8月20日

消防法危険物判定について  
横井 暁（愛媛ラボラトリー）  
四日市地区オープンセミナー－化学物質の安全性－（公益財団法人三重北勢地域地場産業振興センター）, 2018年10月29日

【健康・安全分野】  
化学規制のグローバル化に対応した各国 SDS / ラベル作成の重要性について  
中谷圭吾（安全性評価部）  
四日市地区オープンセミナー－化学物質の安全性－（公益財団法人三重北勢地域地場産業振興センター）, 2018年10月29日

ヒト健康・環境有害性評価のための試験提案と概要  
浦野のり子（安全性評価部）  
四日市地区オープンセミナー－化学物質の安全性－（公益財団法人三重北勢地域地場産業振興センター）, 2018年10月29日

REACH 本登録後の対応（第1講）  
中島 望（健康・安全事業部）  
㈱住化分析センター主催 EU REACH の登録後の対応について（文京区シビックセンター スカイホール）, 2018年10月31日

物質同定（Substance identity）最新動向（第2講）  
有賀のり子（健康・安全事業部）  
㈱住化分析センター主催 EU REACH の登録後の対応について（文京区シビックセンター スカイホール）, 2018年10月31日

フタルート、フッ素系化合物、ナノマテリアル等最新規制動向（第3講）  
齋藤昇二（健康・安全事業部）  
㈱住化分析センター主催 EU REACH の登録後の対応について（文京区シビックセンター スカイホール）, 2018年10月31日

# 編集後記

住化分析センターの技術広報誌 SCAS NEWS 2019-1 号（通巻第49号）をお届けします。今号のテーマは、「クルマ社会の未来に貢献する分析技術」です。

巻頭では、水素供給利用技術協会 金子彰一様より「水素時代の到来と水素分析への期待」と題して、燃料電池開発の歴史をふりかえりながら、水素時代の将来像と化学分析の役割について当社への期待を込めて提言いただきました。また、東京工業大学 菅野了次先生、平山雅章先生、鈴木耕太先生からは、「全固体リチウム電池開発とそれを支える解析技術」と題して、安全性、信頼性の高い次世代の電池として期待が高まる全固体リチウム電池における、材料探索とデバイス開発を支える解析技術について、ご研究の一端を紹介いただきました。

また、筑波、千葉ラボラトリーによる共同企画に加え、マテリアル事業部や愛媛ラボラトリーとも協働して「リチウムイオン二次電池正極材の原子規則配列の定量評価」や「リアルタイムモニタリング技術によるデバイス内部の初期故障の可視化」、「高沸点炭化水素を用いた昇温脱離・反応スペクトル分析による触媒評価」といった自動車産業周辺の話をお届けしました。

筑波ラボラトリーでは特に電子顕微鏡による観察技術・知見を集積して、電子・エネルギー・医療・新規材料開発等、様々な産業の先端技術開発を支援しております。千葉ラボラトリーでは電子・半導体分野で培った超高感度分析を基に、スマート社会の構築に関わる技術開発を進めております。両ラボでは、社外機関とも連携して、水蒸気透過度測定技術や燃料電池自動車の水素品質評価技術の標準化を進め、その開発と実用化に貢献して参りました。

当社はこれからも、研究・開発されているお客様の視点に立って課題を理解し、多様なご要望に応えることで、人と社会の安心で安全な明日を支えてまいります。

M・K

筑波ラボラトリーでは特に電子顕微鏡による観察技術・知見を集積して、電子・エネルギー・医療・新規材料開発等、様々な産業の先端技術開発を支援しております。千葉ラボラトリーでは電子・半導体分野で培った超高感度分析を基に、スマート社会の構築に関わる技術開発を進めております。両ラボでは、社外機関とも連携して、水蒸気透過度測定技術や燃料電池自動車の水素品質評価技術の標準化を進め、その開発と実用化に貢献して参りました。

当社はこれからも、研究・開発されているお客様の視点に立って課題を理解し、多様なご要望に応えることで、人と社会の安心で安全な明日を支えてまいります。

M・K